

おおきなかぶ



ロシア民話

A・トルストイ 再話 佐藤 忠良 絵

内田 莉紗子 訳

福音館書店 1962年 780円

28ページ 20×27cm

おじいさんの植えたかぶは、願いどおり、あまい大きなかぶになりました。ところが、あんまり大きくなりすぎて、おじいさんが抜こうとしてもかぶは抜けません。おじいさんはおばあさんをよんできて、うんとこしょ、どっこいしょ。それでもかぶは抜けません。おばあさんは孫をよんできて、孫は犬をよんできて、犬はねこをよんできて、ねこはねずみをよんできて、みんな、うんとこしょ、どっこいしょ。やっとかぶは抜けました。

「うんとこしょ、どっこいしょ」のリズムにのせて繰り返される場面の面白さと、角度を変えてかぶが描かれることで、臨場感が伝わってきます。ついつい子どもたちも真似をしてしまうようです。一緒に楽しんでください。



おおきなもののすきなおうさま

安野 光雅 作・絵

講談社 1976年 1680円

28ページ 29×22cm

おおきなもののすきなおうさまは何でもおおきくないとお気に召しません。屋根よりもおおきなベッド、のこぎりよりもおおきなナイフとフォーク、むし歯をぬくためのおおきなくぎぬき。おおきなものを作るのに家来たちは毎日大忙しです。ある日、おうさまはおおきなうえきばちにチューリップの球根をうえました。「おおきなうえきばちにはおおきな花がさくに違いない」と心待ちにしていたおうさまですが、うえきばちにさいたのは小さなかわいいチューリップでした。

おうさまにふりまわされる家来たちが大変そうとは思いながらも、その様子が楽しくてついつい笑ってしまいます。おうさまのわがままには困ったものですが、最後にはとても大切なことに気づかせてくれます。

